

祭神…比古佐和氣能命↓天津彦根尊↓須佐之命…3回変
わっています。

武内社…すなわち出雲風土記・延喜式にも記載してある由緒ある
神社です。

明治四十二年に伊努神社に合祀されていますが、それまでは、川
北町内として日下境の大黒山の岩山の下の方夫婦岩が朝村権現のご
神体になっています。

その足下に祠の跡が残っており、祠のそばに神の水が湧く高清水
があります。

「男神石高さ二丈・女神石高さ一丈七尺」と古文書に記載してあ
ります。

雲陽誌…朝村権現 天津彦根尊を祭る。社三尺に四尺南向き、
五町ばかり山上に登る

祭日…九月二十九日
古老の話によると

当社の大神は赤衾伊努意保須美比古佐和氣命・天之甕津比賣命
にして鎮座玉ふ地を朝村山という。 御父君 意美豆努命の

韓国を引寄せ賜いし国土の経営の為、自ら先導となり諸神を毎

朝此処に群集せしめて、国土経営の御力を助け泰りて大に功業
を賜れたという。故に此処を朝村山と称す。

出雲国の北山なり。当社に坐ます御両神、当山に相立して諸神
を集め賜いた御功績を顕し玉ふ、大神体の証跡なりと伝わる神
石二個「男神石高さ二丈・女神石高さ一丈七尺」直立し本社
の後にあり。この二つの立石、向かい合つて石と石の間五寸ばか
り、「これよりして後神は秋鹿郡へ国巡り行坐して伊努卿にて
伊農波夜を玉ふ」これに依りて当社は比古佐和氣命の御功業中
の地にして同村なる伊努神社は御功業を意へて御中を主り御
社なりと伝わっている。

明治三十六年三月神社書出帳記載…(河野由房氏の鳶
巣村誌より)

